



特集

使わなければただの紙
使いこなせば守りがみ

わかっているリスクに 備えましょう



ふじのくに防災士
菊川市委員会
杉山 哲昭 さん
(神尾下)

大雨や台風などの災害が迫ってきた時に、避難することが全てではありません。自宅にとどまり、「避難しない」というのも1つの手段です。雨の降り方を見て、安全な場所にいるなら危険を伴う避難はしない方がいいと思います。避難判断のルールを各家庭で、事前に決めておくのが大切です。災害が大きくなるほど、公助は限られ、自助が過重になります。防災は何が正しいのかわからないからこそ、考えることが大切です。行政依存から脱却し、平常時にできることを今すぐやるべきだと、

「避難しない」というのも1つの手段です。雨の降り方を見て、安全な場所にいるなら危険を伴う避難はしない方がいいと思います。避難判断のルールを各家庭で、事前に決めておくのが大切です。災害が大きくなるほど、公助は限られ、自助が過重になります。防災は何が正しいのかわからないからこそ、考えることが大切です。行政依存から脱却し、平常時にできることを今すぐやるべきだと、

「避難しない」というのも1つの手段です。雨の降り方を見て、安全な場所にいるなら危険を伴う避難はしない方がいいと思います。避難判断のルールを各家庭で、事前に決めておくのが大切です。災害が大きくなるほど、公助は限られ、自助が過重になります。防災は何が正しいのかわからないからこそ、考えることが大切です。行政依存から脱却し、平常時にできることを今すぐやるべきだと、

ハザードマップ活用法 その3

防災士が語る、命を救う“はじめての一步”

私が平成17年に防災指導員になった時、小笠地区の防災対策が遅れていることに気づきました。昔に比べ河川は整備され、埋め立てられた場所もありますが、小笠地区は昔から浸水被害が心配される地域です。そのため、土地があるから建物を建てて大丈夫ということではありません。昔の地図を見ると、頑丈な地盤か、田んぼなどを埋め立てた土地かがわかります。ハザードマップを見ても一目瞭然です。河川から離れているから安心とは限らないことを知っておく必要があります。

過去を知って 先を見据えましょう



ふじのくに防災士
菊川市委員会
鈴木 保 さん
(石原)

また、避難所に集まることを前提に防災対策を考えてはいけません。新型コロナウイルスの心配もあるので、避難所に行くことができないように、備えること「自助」が大事です。避難所は本当に困った事態になった場合に行く場所です。常に危機感を持つことが大事です。防災用品の用意や家屋の耐震補強なども、やったから良しではなく、常日頃の心構えが備えになります。いざという時のことを先手を取って考えることが大事です。

また、避難所に集まることを前提に防災対策を考えてはいけません。新型コロナウイルスの心配もあるので、避難所に行くことができないように、備えること「自助」が大事です。避難所は本当に困った事態になった場合に行く場所です。常に危機感を持つことが大事です。防災用品の用意や家屋の耐震補強なども、やったから良しではなく、常日頃の心構えが備えになります。いざという時のことを先手を取って考えることが大事です。

土砂災害の仕組みを確認して、いざという時は相談窓口へ



山の斜面や自然の急傾斜のがけ、人工的な造成による斜面が崩壊することにより、土砂災害は起こります。また弱い雨でも長時間降り続くことによって地盤が緩み、崩れやすくなります。

詳細は県ホームページへ▶



「土砂災害110番」は土砂災害の相談窓口です。災害時の前兆現象・災害情報の通報を受け、適切に対応しています。

詳細はこちら▶



問 菊川市建設課 (☎35-0902)
袋井土木事務所 (☎0538-42-3216)